

# 保護者のための Uターン 就職セミナー& トークセッション

子どものUターン就職を希望する保護者向けのセミナー&トークセッションが3日、八戸市のデーリー東北新聞社6階メディアホールで行われました。八戸商工会議所、八戸地区雇用対策協議会、八戸市、デーリー東北新聞社が主催。青森県南地域から参加した保護者らは、親ができる就職サポートの在り方や地元で働くメリットなどについて理解を深めていました。当日の内容を詳報します。

左から田中大志氏、田名郁明氏、田畑平氏

トークセッション

当日の様子はYouTubeでも配信中心!



### 採用活動に変化

井上 本日は会場の参加者に加え、動画投稿サイト「Uターン」でもトークセッションの模様を配信し、多くの方が見ています。保護者の皆さんは田畑さんの年齢に近いお子さんをお持ちで、Uターン就職された動機に関心を持たれていると思うので、そのお話から教えてください。

田畑 私はおいらま町出身で、現在25歳です。八戸工業高から山形大に進学後、就職時にUターンし、八戸市にある当社に入社しました。地元に戻るのは、高校時代の友人から当社について良い企業だと聞いたことがきっかけです。また、親が高校の時の担任から同じような話を聞いていて、親からも当社を薦めてもらい、縁を感じました。

井上 地元の良い企業が存在

## 就活支える親の役割は

トークセッションでは、実際に地元でUターン就職者を受け入れている事業所の立場から、株式会社高橋製作所の田中大志常務取締役と青い森信用金庫人事部の田名郁明部長が出席。Uターン就職した若手社員として、エフソニアトミックス株式会社の田畑平氏が参加しました。八戸学院大講師の井上丹氏が進行役を務め、就職活動の実態や課題などに触れつつ、保護者の関わり方をめぐって活発に意見を交わしました。

田中 当社では今夏にUターンで1人が入社しました。配属させる部署の他の社員が60代と40代で、年齢が大きく離れていない人材がほしいからため、新卒ではなく中途採用の形を取りました。青森県と八戸市がUターンの就職支援力を入れており、それぞれ求職者と企業をマッチングさせるサイトを設けているのですが、これらを利用していただくユーザー人材を確保できました。

井上 親がお子さんに、県内、県外、県外にお聞きしますが、最近の学生の採用活動は変化しているのでしょうか。

田名 当金は地域外での面接試験を、基本的に対面で行っていましたが、今年はコロナ禍の影響でウェブ面接に切り替えました。気軽に申し込めるため、希望者の幅が増えることも期待しました。ただ、最終的には対面による面接で本人の印象を確かめ、判断することになっています。

ファシリテーター



八戸学院大  
地域経営学部講師  
井上 丹 氏

## 地元企業の情報伝え

## 有効なアドバイスを

### Uターンは自分の意思で

井上 実際にUターン就職した田畑さんは、地元に戻って良かったと感じていますか。

田畑 ●やはり住み慣れた地域なので、居心地が良いです。実家に暮らしていると家事の負担が軽くなりますし、近くにいる祖父母や親に何かあった時でも、すぐ駆け付けられるという安心感があります。

井上 ●今の若い世代は仕事だけではなく、心豊かに自分らしく過ごせるという点を重視してUターンする人も多いですよね。それでは、親がお子さんの就活をサポートできるのはどんなことでしょうか。

田中 ●親のほうに人生経験が長いので、家賃などの支出も含め、地元で働きながら生活するのはどういふことを事実ベースで話すの良いでしょう。お子さんが納得し、自分でUターンを決意することが

大事です。それを強要するのは駄目ですが、親が地元に戻ってきてほしいと思っているのなら、素直にお子さんに伝えたい方がいいです。

田名部 ●親子間の関係は、昔に比べてフラットなものに変わってきています。お子さんが就職する場所を決める際にも、親のアドバイスは有効になると思います。また、地元企業を詳しく知らないお子さんも多いと思いますので、親がこうした企業情報をうまく伝えることは大切です。

井上 ●今は八戸地区雇用対策協議会の「八戸企業ガイドブック」や、デーリー東北新聞の「リクルートラウンジ」別刷り特集など、就活に役立つ企業情報をまとめたものがあるので、お子さんに見てもらおうと良いでしょうね。本日はありがとうございました。

デーリー東北

## 基調 セミナー

井上 丹 氏

トークセッションに先立って行われたセミナーでは、

八戸学院大講師の井上丹氏がコロナ禍における就職活動の変化や、

地元で働くメリットなどについて分かりやすく解説しました。

# 地方で働く良さを見直して

今のコロナ禍において、就職活動や働くことへの意識はどのように変化してきているのでしょうか。リクルートキャリアが発表した調査結果によると、来年に卒業予定の大学生の内定率は、今年9月1日時点で85%でした。データだけを見ると、コロナ禍の影響で内定率が大きく

くと考えています。東京での暮らしは便利かもしれませんが、3密のライフスタイルは大きなりスクがあることが明らかになりました。この結果、地方で働きたいという層が一定数出てきて、地方創生が進むのではないのでしょうか。

そして、県内に住んでいなくても、定期的に地域と関わる「関係人口」と呼ばれる存在になります。例えば、皆さんのお子さんが盆と正月に欠かさず帰省している場合も、関係人口と言えることができます。

関係人口となれば、Uターンする可能性が高くなります。その

るのではないのでしょうか。そして、地域にはITを使っているいろいろなビジネスを展開できる可能性も眠っており、魅力的な資源も多くあります。地域らしさと自分らしさを軸に、時代に合わせ発展、進化させていければ、地域での持続的な暮らしや仕事ができると思います。

セミナーで地元就職のメリットなどを強調した井上丹氏

下がっているというわけではありません。一方で、企業の説明会や面接の方法はかなり変わりました。昨年までは学生が会社を直接訪問していましたが、今年はおオンラインで行われる機会が増えています。

また、地方で働くことの良さが、今後ますます見直されています。

故郷の魅力や課題を深く知ることが必要です。今はインターネットでも情報が手に入りますが、インターンシップなどを活用して実際に地元の人と一緒に働いてみるのが大事です。このような経験をすると、故郷のことを自分に関わるものとして捉え、考え続けるようになります。

場所の魅力や課題といった「地域らしさ」を受け入れられたら、Uターンしても自分らしく働け

